



芸能発表会の一コマ

みなさんの地域で活動している地区社教の委員長で構成する組織に高山市社会教育連絡協議会(会長 中屋助十郎さん・三枝地区)があります。

協議会では、日本一広い地域となった高山市の一体感を目指した独自の事業として、芸能発表や地域での社教の役割を考える研修会などを行っています。

こうした取組みの中で、地域の特性を尊重し合い、お互いの個性を引き伸ばせるよう研さんを深めています。

芸能祭や研修会で
一体感ある活動

●三枝地区



昭和61年に三枝小の子どもたちが夏休みの科学作品でホタルの研究をしました。次の年、大きく育てたホタルの幼虫「3匹」を放流したのがきっかけで、学校にホタルクラブが発足。この輪は学校から発信され、PTAを動かし、そして地域の人々の心にまで大きく広がっていきました。

道路や水路の整備などで自然環境も変わりますが、新しい生息水路づくりなど三枝小学校・ホタル保存会・社教が一体となった地域ぐるみの活動を行っています。こうした実践活動を通じて再びホタルがたくさん舞うホタルの里・三枝を目指しています。

地域で守るホタルの灯

ホタルの舞うふるさとを守りたい



三枝ホタル保存会長
山本良吉さん

三枝地区では、小川を整備したホタルの飛翔するところがあります。先日も年老いた方が「家のそばでホタルの光が見られるなんて長生きしてよかった」と喜んでおられました。

これからも「ホタルの里・三枝」を守っていくために、地区社教の支援を受け住民と共生するホタルの里を守っていききたいと思います。

●久々野地区



地域のみなさんに久々野の中・高校生たちを温かく見守ってほしいとの願いから「ふなやま川柳」を始めて4年目を迎えました。毎年、7月1日の「高山市青少年健全育成強調週間」の初日に、青少年育成部の20人が列車通学の高校生に健全育成のパンフレットと一緒に川柳の応募用紙を手渡しています。

応募された川柳は社会現象と家族の様子をからめた感性豊かな句もずらり。年々応募数も増えており、青少年への理解が着実に深まっています。ちなみに入賞者には地元飲食店のカツ丼券が贈られます。

昨年の優秀作品

「原油高 バスで帰れば 親笑顔」

青少年育成にあつたか川柳

スローガンは“自立できる自分づくり”



久々野社教青少年育成部長
森下政巳さん

私たちのスローガンは“自立できる自分づくり”。私たちにできることは、今生きている私たちの活動に青少年が少しでも顔を出してくれることです。

未来を担う青少年たちが、市、町内会、社教などの行事に参加して、学校では得られない、地域の大人から何かをつかみとってくれることを願って活動しています。